

判断を保留すること

今回は“判断を保留すること“について話をしていきます。

もし、“ファシリテーターに必要なことは？”と私が訊かれたら、必ず答えることのひとつに、この“判断を保留する”があります。この言葉は、ファシリテーターとして場に立つようになり、少し落ち着いて場をつくることができはじめた頃、本を読んでいた出逢いました。

判断を保留するという事は、ダイアログの場をつくる側としてとても重要なことで、中立な立場で場を促すためには欠かせない要素だと私は思っています。なぜかというと、判断をすればするほど、場はファシリテーターの方へ流れていきます。発言の受けとめ方や質問、いろんな要素が判断に傾いていくでしょう。

私にとってファシリテーションとはスキルやテクニックというよりは、毎日の生活の中での自分の在り方だと思っています。普段の生活でできないことはファシリテーターとして場に立った時にも行わない、ファシリテーターとしてダイアログの場で行うことは日常でも同じようにする、といった感じに。私は自然な状態でダイアログの場に関わりたいと思っているので、この“判断を保留する”というのは、私の日常での在り方を表す言葉でもあります。

さて、どうして人は話の中で判断をするのでしょうか？

黙って聴いていければいいのに、つい口を挟んだりして人の話を止めて。最後まで聴いていたにしても、口を開けると先ほどの意見が正しいとか間違っているとか。その発言をした人はそんなことを求めて発言しているのでしょうか。

いちいち、良いとか悪いとか言われたとしたら、私なら話をしたくありません。もし、それが自分のボスであっても。私はその人に評価されるためにチームにいるのではなく、自分に適切な役割で自分の能力を活かし、例えばその場のプロジェクトの目的を發揮するためにその場にいます。

でもそれは話し手の想いですよね。聴き手としては自分の正しさを証明するために必死なのかもしれません。”俺の方がすごいだろ～”とか”俺のことを認めてくれよ”とか。もしくは、そのまま黙って聴いていると、立場やプライドなど見えない何かを失ってしまうと思込んでいるのかもしれません。

私はとにかく判断されたくなかったんだと今なら思うことができます。誰かにダメと判断されるのが怖くて、だんだん自分の世界のカタチを変えて人に合わせて。失敗しないように、否定されないように生きてきた人間でした。なので物事の基準は常にまわりの人の中に置いてきたつもりです。

結局、人と話をしている中で、混沌が生まれて理解や整理できない状態が怖かったり、自分の思考の枠の外に出られてわからなくなるのが怖かったり、そんな風にならぬ怖れが生まれてくるみたいで、それが判断をするということにつながっているようです。すべては大切な自分という存在を守るために。

でも、私という存在は常に守られています。目の前の人の話を最後まで聴いても、怒鳴られたとしても、変わらず私という存在は守られています。相手のことをそのまま受けとめることができた時に、それを体感していただけるはず。もし受けとめられないのであれば、それは目の前の人ではなく、単に自分のことを受けとめられてないだけのことが多いです。そう、自分を攻撃しているのは自分かも。

安心を手に入れるために未来を憂い、その結果起きてもないことたちを心配してより不安を手に入れる。そんな悪循環を見かけることが意外と多いです。これは私たち人間の知能が高まったことでより生まれていることなのかもしれません。

私たちが生きているこの世界では、算数の計算のようなハッキリとした答えを得られることは数少なく、多くは切り取ったタイミングによって良い悪いが変わってきます。言い方を変えると、間違いも正解もないのがこの世界なのかもしれません。現にこの世の常識や倫理などは時代によって変わってきています。

ふと考えてみた時がありました。これまで私が体験し学び得た経験や知識は、地球全体の経験や知識などに比べるとどれぐらいのものかと。手のひらに置けるぐらいの地球から比べたとしたら、私が体験し学び得た知識は、小指の爪の先にも満たないのです。そんな知識で世界の何を決めつけ判断するのでしょうか。

仮に私が死を迎えるまでに世界のすべてを把握できたとします。では、それまでは何を基準に世界を判断をするのでしょうか。もし判断するとしたら、それはあくまで私のために私自身の判断基準を用いる、ただそれだけです。あなたの中にはあなたの判断基準がある、それがこの多様な世界をつくりだしている個の証です。

先日のダイアログの中で私にとって”促す”とは”わからないこと”となりました。わかることなら目的に向かって”導く”でいいはず。目的や目標には向かいますが、それがどんなことなのか、どんなものが生まれるのかは”促す“中ではわからないものだと思います。そう、自分の枠の少し外側にある”わからないこと“だからワクワクできるのかもしれません。

ダイアログの目的のひとつは探求であり、お互いの考えや背景などを掘り下げ理解し合うもの。その過程で片側が勝手に相手を決めつけたらどうなるのでしょうか。もしくは、勝手に見下したりしてバカにし始めたらどうなるのでしょうか。

相手を否定するということは、自分を否定するということです。なので、相手を判断するということは、自分を判断するということです。いちいち判断してしまうことは人間なので仕方がないのです。だから判断を保留する、それがダイアログの場においてとても重要なことなのです。